

経済レポート

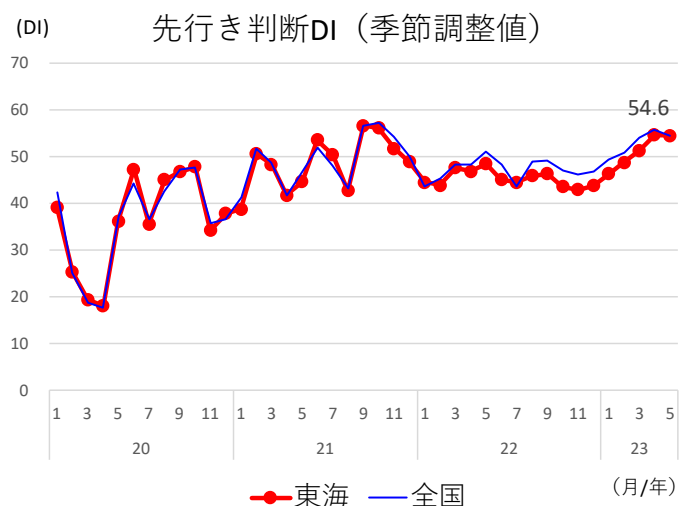
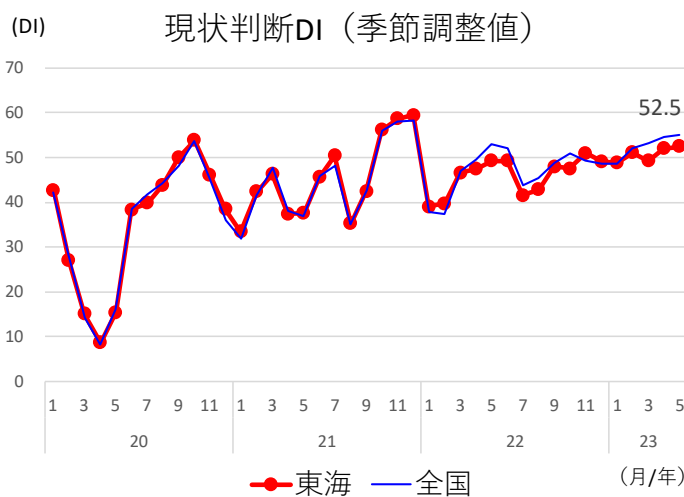
景気ウォッチャー調査(東海地区:2023年5月)

～コロナ感染の落ち着きにより、現状判断の改善が続く～

主任研究員 塚田裕昭

- 6月8日に内閣府が公表した「景気ウォッチャー調査」によると、東海地区の5月¹の

**現状判断DI(季節調整値)は、前月差+0.5ポイントの52.5と2ヶ月連続で上昇した。
先行き判断DI(季節調整値)は、前月差-0.1ポイントの54.6と6ヶ月ぶりに低下した。**



- 当社では、東海地区の景気ウォッチャーの見方を

新型コロナウイルス感染の落ち着きにより、景況感は持ち直している。先行きについては、物価上昇の影響が懸念される一方、コロナ後の経済正常化への期待がみられる。

とまとめた。

(前月のまとめ)

「新型コロナウイルス感染の落ち着きにより、景況感は持ち直している。先行きについては、物価上昇の影響が懸念される一方、新型コロナウイルス感染症の5類移行後の好影響やインバウンド回復への期待がみられる。」

- 内閣府では、全国調査での景気ウォッチャーの見方を

景気は、緩やかに回復している。先行きについては、価格上昇の影響等を懸念しつつも、緩やかな回復が続くとみている。

とまとめている。

(前月のまとめ)

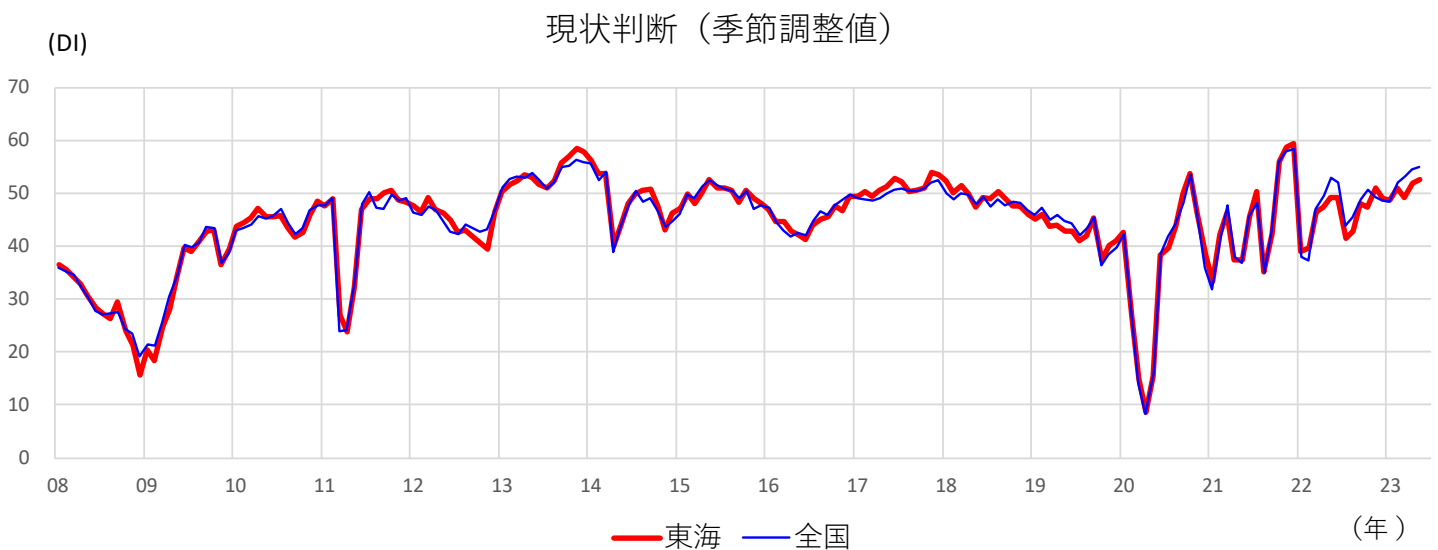
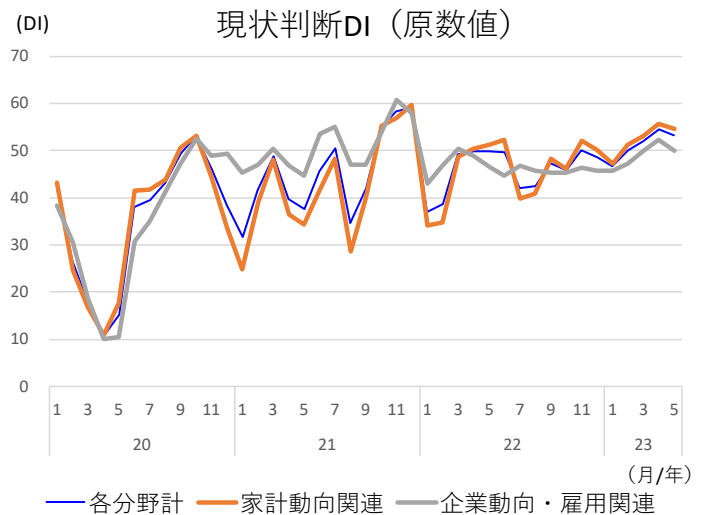
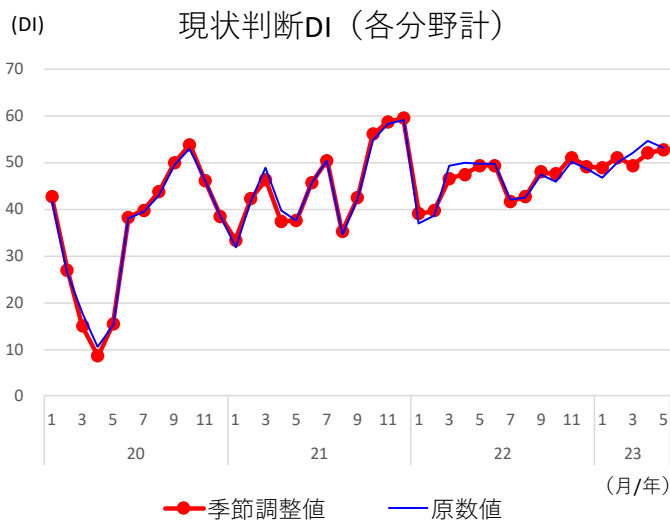
「景気は、持ち直している。先行きについては、価格上昇の影響等を懸念しつつも、持ち直しが続くとみている。」

¹ 調査期間は毎月25日～月末

1. 景気の現状判断(3ヶ月前との比較、方向性)

(1)DIの動向

- 3ヶ月前と比較しての景気の現状に対する判断DI²(季節調整値)は、前月差+0.5ポイントの52.5と2ヶ月連続で上昇し、横ばいを示す50を2ヶ月連続で上回った。
- 部門別に見ると(原数値)、家計動向関連(小売、飲食、サービス、住宅関連)DIは、同-1.1ポイントの54.7と4ヶ月ぶりに低下したが、横ばいを示す50を4ヶ月連続で上回った。企業動向関連と雇用関連からなるDI³は、同-2.3ポイントの50.0と5ヶ月ぶりに低下した。



² 本調査のアンケート・サンプル総数は227、うち家計関連154、企業・雇用関連73。以下、先行き判断についても同様。

³ 企業動向関連と雇用関連からなるDI(原数値)は、内閣府HPに掲載されている地域別の各分野合計値から家計動向関連の値を除いた上で、「景気ウォッチャー調査」のDI算出方法に従って当社調査部にて試算した。

(2) 現状判断理由の概要

(注)コメント引用部左側の記号は以下の通り

◎:良くなっている、○:やや良くなっている、□:変わらない、▲:やや悪くなっている、×:悪くなっている

【家計動向関連】

➤ 新型コロナウイルス感染が落ち着いたことで、景況感の改善が続いている。一方、物価高による消費抑制も指摘されている。

◎	旅行代理店 (営業担当)	・新型コロナウイルス感染症の影響を受けない旅行シーズンの到来を、仕事量からも痛切に感じる。毎日、旅行関連の問合せが入っており、団体旅行も実施している。世の中は完全に新型コロナウイルス感染症発生前に戻っている。
○	一般小売店 [贈答品] (経営者)	・人との付き合いは活性化してきている。コロナ禍が一段落し自由に行動できるようになったため、冠婚葬祭の参加人数も増えた。来客数や購入金額も増えており、元の付き合いに戻っている。
○	百貨店 (営業担当)	・新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行後は消費者のマインドが変わりつつあり、来客数の増加につながっている。中旬に開催した物産展も好調に推移した。
○	スーパー (販売担当)	・商品の値上げによる客の買い控えは依然として続いている。コロナ禍に伸長したマスク等の落ち込みは顕著であるが、日焼け止めやリップ等が上向いている。夏に向けた商材の動きは前年より良い。企業の取組次第で格差が出ている。
○	コンビニ (店長)	・前年比で来客数は1割前後増えている。インバウンドの来客数も少しずつ増えており、良い状況が続いている。
○	一般レストラン (従業員)	・客はマスクなしで来店し、新型コロナウイルス感染症発生前と同じような感覚で飲食してくれる。大変有り難い。
□	スーパー (営業企画)	・新型コロナウイルス感染症の分類が5類感染症へ移行されたことにより生活全体に動きが出てきたが、外食の伸びにより内食需要は抑えられている。来客数、客単価共に、大きな変化はない。
□	乗用車販売店 (従業員)	・半導体の供給遅れははまだ解消されていないが、以前と比べると納車までの期間が短くなっている。
□	その他飲食 [ワイン輸入] (経営企画担当)	・物価高により消費を抑制する動きはあるものの、それ以上に賃上げや株価の上昇など明るい話題も多く、購入を控える動きは見られない。
▲	スーパー (店員)	・値上げが続いている。販売量は90%前半であるが売上が100%前後なのは単価上昇によるものであり、決して好調とはいえない。

【企業動向・雇用関連】

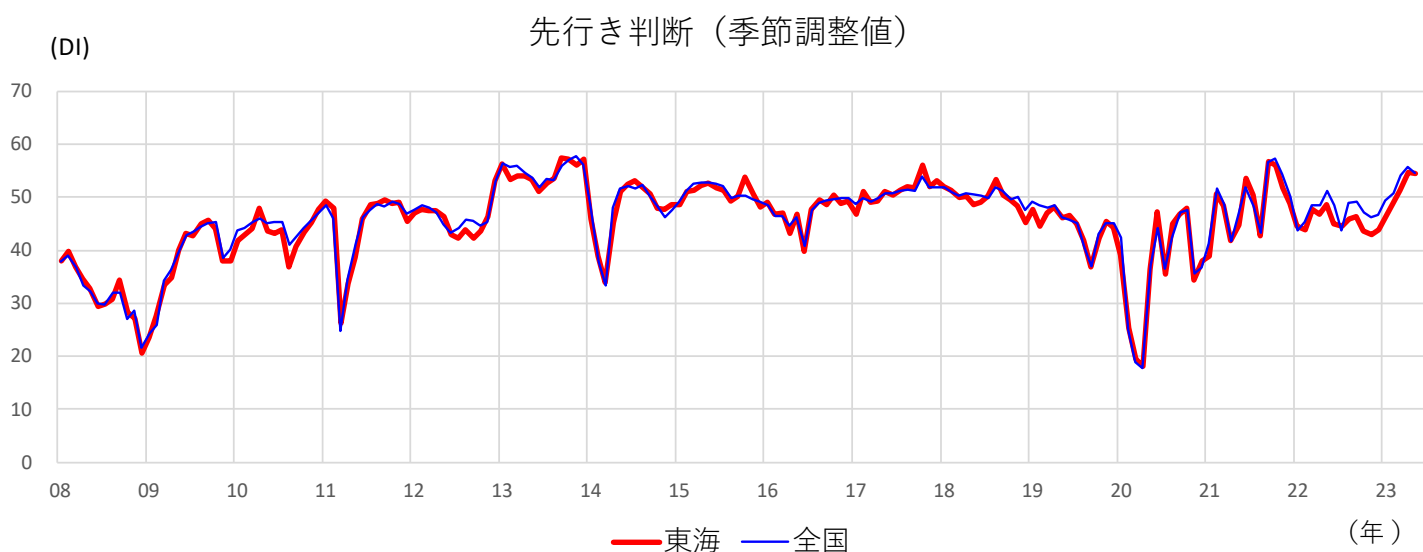
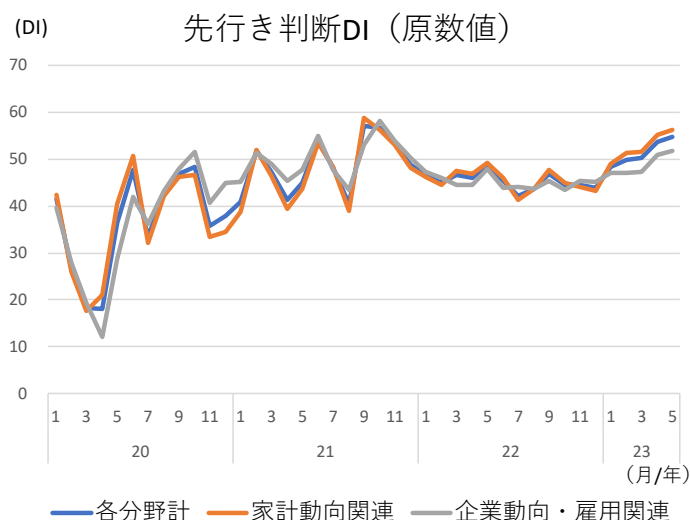
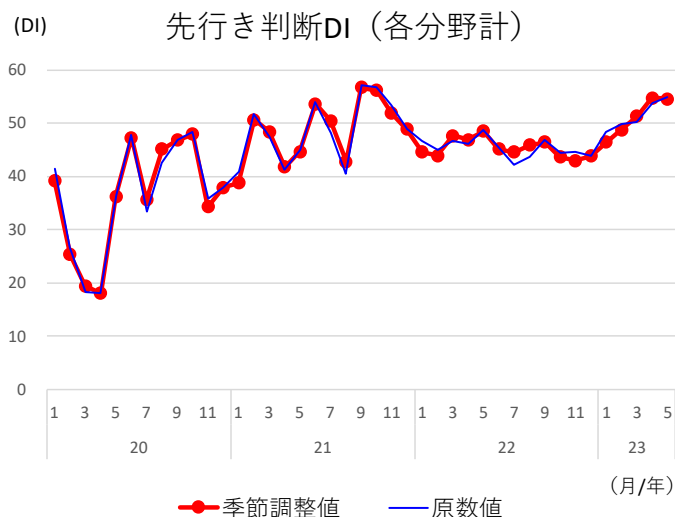
➤ コロナ明けで人の活動が戻り、求人も増えてきている。一方、原材料価格の上昇により収益的には厳しいとの声もみられる。

○	公認会計士	・来客数は3か月前と比較して増えているが、売上と比例して利益が増えていない印象である。物価高の影響で仕入れ等の原価コストが上昇していることが大きな要因である。消費は回復傾向にあり、人手不足による機会損失が出ている取引先も増えているが、少しずつ価格転嫁する企業が増えてきた。
○	人材派遣会社 (営業担当)	・取引先からの情報によると中途採用計画数を前年比で増やしている企業が多い。実際に当社へ応募する求職者の併願先の選考状況を聞いても、最終選考や内定に至っている先が複数あるケースが多い。
○	新聞社 [求人広告] (営業担当)	・コロナ禍が明けて、観光業やサービス業を中心に人の活動が戻りつつある。業種にもよるが、新型コロナウイルス感染症発生以前を超える業種も一部出ている。
○	職業安定所 (職員)	・製造業、特に自動車関連からの求人が回復傾向にある。
□	金属製品製造業 (従業員)	・首都圏中心の建設市場活況による影響と思うが、例年にない仕事量の状態が続いている。ただし、収益的には原価高などの影響もあり、むしろ減少気味である。
□	建設業 (営業担当)	・取引先の状況からは、単価も売上も上がっており、世の中の状況に鑑み今年に限り給料を上げるという話も聞くため、景気は上向いていると考える。ただし、入荷する部品の価格が上がっているため、トントンかもしれない。
□	輸送業 (従業員)	・世間一般を見れば、ヒト・モノの動きは5月に入ってから明らかに活発になっている。当社でも荷主からの引き合いは新型コロナウイルス感染症発生前の水準にほぼ戻った。しかし、売上の回復以上に各種経費が増大している。賃金上昇にも取り組んでいるが、荷主への値上げ交渉は思うようには進まず、先行きは不透明である。
▲	パルプ・紙・紙加工品製造業 (顧問)	・受注量、販売量が大きく減少している。特に自動車関連は引き続き悪く、その他も買い控え等の影響か、受注量、販売量が減少している。
▲	電気機械器具製造業 (経営者)	・部品単価の高騰が相変わらず続いているが、値上がり分を販売価格に転嫁できないため、全体として利益が減少して困っている。

2. 景気の先行き判断(2~3ヶ月先の見通し、方向性)

(1) DIの動向

- 2~3ヶ月先の景気の先行きに対する判断DI(各分野計:季節調整値)は、前月差-0.1ポイントの54.6と小幅ながら6ヶ月ぶりに低下したが、横ばいを示す50を3ヶ月連続で上回った。
- 部門別に見ると(原数値)、家計動向関連(小売、飲食、サービス、住宅関連)DIは、同+1.2ポイントの56.3と5ヶ月連続で上昇し、横ばいを示す50を4ヶ月連続で上回った。企業動向関連と雇用関連からなるDIは、同+0.7ポイントの51.7と3ヶ月連続で上昇し、横ばいを示す50を2ヶ月連続で上回った。



(2) 先行き判断理由の概要

(注)コメント引用部左側の記号は以下の通り

◎:良くなる、○:やや良くなる、□:変わらない、▲:やや悪くなる、×:悪くなる

【家計動向関連】

➤ コロナの落ち着きによる改善が期待されている一方で、物価上昇が懸念されている。

◎	都市型ホテル（営業担当）	・コロナ禍で食事を自粛していた企業からの問合せが多くなっている。全国旅行支援が終了し宿泊稼働は落ち着いてきているが、インバウンドの来客数も徐々に増えてきているため、今後が期待できる。
○	百貨店（営業企画担当）	・前年は6～8月にかけて新型コロナウイルス感染症の第7波が来たが、本年は5月から感染症法上の分類が5類感染症へ移行したため、夏場の景気は良くなる。
○	スーパー（支店長）	・新型コロナウイルス感染症もようやく落ち着き、マスク生活からも徐々に解放されたことで消費者の動きが活発になると同時に、消費も活性化しつつある。人々が動けば経済は上昇するため、今後インバウンドも含め期待したい。
○	乗用車販売店（従業員）	・足元の良い流れには安定感があり、問合せから成約につながっていくと考える。良い方向に向かっていく。
□	商店街（代表者）	・コロナ禍からの解放感が出てきたので消費活動は活発になりそうであるが、やはり物価高も響いており、全体的な景況感は余り変わらない。
□	百貨店（販売担当）	・人の動きが活発になったため消費も増えると期待したいが、6月からの値上げラッシュが懸念される。
□	スーパー（店員）	・商品の単価上昇がまだ続いているため、最低限の購入はしても、それ以外の買上が非常に少なくなる。
□	乗用車販売店（従業員）	・供給体制は整ったようだがさほど入荷もなく、先が不安である。
▲	百貨店（売場主任）	・前年も同様だったが、商品の値上げラッシュが続いている。6月1日から3ブランドほど2000円から4000円値上げし、インポート物も次から次へと値上げとなる。これまで税込み40000円程度で買った物が税込み50000円近くになり、客もなかなか手が出せないのではないかと懸念されている。
▲	スーパー（総務）	・来客数は若干増えているが、1人当たりの買上金額が前年より1割近く下がっており、物価上昇による買い控えと考える。買物する客の雰囲気は悪いわけではないが、割引商品には敏感に反応している。
▲	乗用車販売店（販売担当）	・円安の影響もあり、車両本体価格が異常に値上がりしている。一方で下取り車の価格は異常に下落しており、非常に販売しづらい状況が続いている。この状況が今後も続くかと予想され、先行きはかなり厳しくなる。

【企業動向・雇用関連】

➤ 受注、生産の改善が期待できるというコメントが散見される一方で、人手不足を懸念する声もある。

○	化学工業（営業担当）	・自動車の生産が回復傾向にある。表面処理剤関係の需要は、徐々に回復見込みである。
○	窯業・土石製品製造業（社員）	・従来品は、足元では在庫調整の色合いが強いため、3か月後には若干上向きそうである。また、新規テスト品が量産に移行する可能性もある。
○	一般機械器具製造業（営業担当）	・アジア、北米の自動車向け設備投資の引き合いが増えており、受注が増えると予想する。
○	電気機械器具製造業（経営者）	・客先業界ではお盆前のある程度の需要が見込めるようで、2～3か月後は仕事量が増えると期待している。
○	輸送用機械器具製造業（品質管理担当）	・客先の生産レートが上がるという情報が入ったため、先行きはやや良くなる。
○	アウトソーシング企業（エリア担当）	・6月以降の自動車生産体制は上向きで、今後発売される新型車種の受注状況によって更なる上向きが期待される。ただし、生産体制強化に伴い人材確保が必要だが、追い付かない状況が見込まれる。
○	職業安定所（所長）	・物価高騰、原材料不足の影響は懸念されるが、人手不足の声は強く、企業の業績回復が期待される。飲食、サービス業の業績回復は遅いが、アフターコロナでの社会経済活動の正常化に伴い、業績は一定程度回復すると見込む。
□	輸送業（従業員）	・仕事量は今後も少しずつ増えると見込むが、運賃が上がるかどうかは不明である。協力会社からも値上げ要請が出ており、業界では値上げムードではあるが、同業他社も同じように値上げ交渉に苦慮しているのではないかと懸念されている。
□	金融業（従業員）	・物価の上昇に対する賃金の伸びは見合っていない様子である。景気が劇的に良くなることは考えづらい。
▲	輸送業（経営者）	・人手不足が更に深刻な状況になると見込む。非効率な仕事は断らざるを得なくなりそうである。

景気ウォッチャー調査について

- 景気ウォッチャー調査は、内閣府が月次で公表する景況調査で、百貨店売場担当者、タクシー運転手、企業経営者など地域の景気に関連の深い動きを観察できる立場にある人々に景気の方向性、水準についての見方を回答してもらい、その結果を集計公表するサーベイ調査である。
- 調査は毎月、当月時点であり、調査期間は毎月 25 日から月末である。
- 調査対象の職種によって、「家計動向関連」、「企業動向関連」、「雇用関連」に区分し、区分毎に、集計結果を公表している(地域別は各分野計、家計動向関連のみ公表)。
 - 「家計動向関連」: 商店街代表者、百貨店担当者、タクシー運転手、美容室従業員など
 - 「企業動向関連」: 製造業経営者、非製造業経営者など
 - 「雇用関連」: 人材派遣会社社員、職業安定所職員など
- 主な調査項目は、次の 3 項目。
 - (1) 景気の現状に対する判断(方向性)
 - (2) 景気の先行きに対する判断(方向性)
 - (3) 景気の現状に対する判断(水準)
 (1)(2)については、判断の理由についても回答を求めている。
- 上記調査項目について、下記の 5 段階の判断を求め、回答結果をもとにそれぞれ点数を与え、これを各回答区分の構成比に乗じて DI を算出している。回答者全員が「変わらない」と答えた場合、DI は 50 となるため、DI=50 が景気の横ばいを示すこととなる。

	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている
評価	良くなる (良い)	やや良くなる (やや良い)	変わらない (どちらとも いえない)	やや悪くなる (やや悪い)	悪くなる (悪い)
点数	+1	+0.75	+0.5	+0.25	0

(出所)内閣府 HP

- 全国各地の地域ブロック毎に集計・分析をおこなっており、東海地区は、岐阜、静岡、愛知、三重の 4 県が対象となっている。

※調査の詳細については、内閣府 HP、「景気ウォッチャー調査」報告書をご参照ください。

－ ご利用に際して －

- 本資料は、信頼できるとされる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一した見解を示すものではありません。
- 本資料に基づくお客様の決定、行為、及びその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所:三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください。
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡下さい。